様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　７ 月　６ 日現在

機関番号：４１２０５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ００５９２

研究課題名（和文）東北地方北部地域の方言アクセント区画に関する研究

研究課題名（英文）A Research on Division of Japanese Dialect Word Accent in the Northern TOHOKU Region

研究代表者
田中　宣広（Tanaka, Nobuhiro）

岩手県立大学宮古短期大学部・その他部局等・教授

研究者番号：６０２８９７２５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　500,000円

研究成果の概要（和文）：当研究では，東北地方北部方言アクセント区画の境界線が走る岩手県および青森県と秋田県また宮城県も合わせ，当研究期間前からの70箇地点超の臨地調査による実態資料から，同地方の方言アクセント区画について境界線を導き出した。
大きく，宮古市や久慈市など太平洋沿岸部の重起伏調＜例：［KUruMA］（車。：大文字＝高音部／小文字＝低音部）～２箇所の高音部）と，盛岡市や遠野市など内陸部の低平調＜例：［kuruma］（車。）に区分される。内陸部はさらに，南奥特殊アクセント＝語頭に高音部のある語例が認められない＜例：一関市方言［maDUdage］（松茸。）～中北部：盛岡市方言で［MAdudage］＝に区分される。

研究成果の学術的意義や社会的意義
主要３点の学術的新規性。１）太平洋沿岸部重起伏調地帯を詳細に区画。従前，「沿岸」表現から，『海沿い』の地点が範囲だとの認識も，内陸部の地点（青森県三戸町，岩手県二戸市ほか）も重起伏調を認め，方言アクセント区画は「沿岸部」のうちと理解できた。２）重起伏調地帯に２音節名詞第Ⅳ・Ⅴ類での末尾母音狭・広によるアクセント決定のある地域（青森県おいらせ町～八戸市～三戸町）を明らかにした。従前では内陸低平調地帯での現象と理解されていた。３）アクセント体系からみた言語島を区画。重起伏調地帯で岩手県洋野町中野，南奥特殊アクセントで同大船渡市盛町，太平洋沿岸部重起伏調地帯内の低平基調の同宮古市田老地区である。

研究成果の概要（英文）：In northern area of TOHOKU region, most of dialects in this area, they have unique word accent system that is cotroled by “Ascending word accent kernels”. We had learned that there is two types of basic tone of word accent. One of these is “Plane tone”, and the other is “Double undulation tone” (Note). In Inland area of Iwate prefecture, Akita prefecture and Tsugaru area of Aomori prefecture have plane tone systems. Pacific coastal area of northern TOHOKU region have double undulation tone systems.
In this research, with my detailed survey at over seventy points, we can verify exact boundaries between two divisions of Plane tone and Double undulation.
(Note)“Double undulation tone”: In some words, there are two high parts in single basic accent phrases (in most of Japanese word accent systems, words have only one high part in a single basic accent phrase). Phrase examples (capital letters mean high parts)：SAkaNA-SAKAna-GA (fish), KUruMA～KURUma-GA (motorcar).

研究分野：日本語地域言語学

キーワード：北奥式アクセント　重起伏調　低平調　太平洋沿岸部　内陸部　南奥特殊アクセント　末尾母音狭広とアクセント決定　言語島

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

20K00592 基金 2020 年度 基盤研究(C)　岩手県立大学宮古短期大学部：田中宣廣

「東北地方北部地域の方言アクセント区画に関する研究」

A Research on Division of Japanese Dialect Word Accent in the Northern TOHOKU Region

成　果　報　告

１．研究開始当初の背景

東北地方北部地域諸方言における方言アクセントは，大きく下記４種に区分することができる。【１】「北奥式アクセント」の基本体系／【２】「北奥式アクセント」の太平洋沿岸部体系／【３】「北奥式アクセント」の青森県津軽地方体系／【４】「南奥特殊アクセント」である。

そのなかで，従前の研究よりも，とくに【２】（太平洋沿岸部体系）のアクセントの特徴を示す地理的範囲が広くなっていると認識されるようになった。さらに，【１】と【２】の接触地帯において，体系上の混交の地点が多く認められるようにもなった。

それらの状況を受け，以下の仮説を立てて今次研究を進めていった。

［あ］【２】太平洋沿岸地域の西端がより内陸側（従前【１】とされていた地域）まで広がる。

［い］【４】「南奥特殊アクセント」では，従前より北側の南奥羽地域の北端付近＝釜石市と大船渡市の市境から北上市と奥州市の市境に至る地域まで広がる。

［う］従前「言語島」とされ注目されていた，大船渡市盛地区，また，洋野町中野地区については，アクセント体系自体が周辺各地点と大きく異なる。

２．研究の目的

従前の調査の結果と分析を踏まえ，４区域と接触地帯のうちあとに示す 20 地点を調査し，従前調査の資料や考察結果も併せて分析しつつ境界線を確定していくのが目的である。

◇４区域と接触地帯について

【１】「北奥式アクセント」の基本体系：のぼりアクセント核（以降「のぼり核」）のない語の場合は低平調で，２音節名詞第Ⅳ類・第Ⅴ類では末尾母音の広狭でアクセントが異なる：秋田県～岩手県中北部。

【２】「北奥式アクセント」の太平洋沿岸部体系：重起伏調＝１単語内に２箇所の高い部分の語例が認められる：従前は青森県八戸～岩手県大槌町の海沿い；当研究者の調査により北端は青森県おいらせ町～西端（内陸側）は岩手県二戸市～宮古市腹帯地区

【３】「北奥式アクセント」の青森県津軽地方体系：のぼり核のない語の場合は尾高調で，２音節名詞第Ⅳ類・第Ⅴ類では末尾母音の広狭でアクセントが異なる：青森県津軽地方＝弘前市・青森市・黒石市など平内町以西

【４】「南奥特殊アクセント」：のぼり核のない語の場合は低平調で，語頭にのぼり核のある語例が原則認められない，北奥式から一部の欠けた体系となる。従前，岩手県南部から宮城県北部のアクセントの岩手県部分は県の南端に限定されていた。当研究者の調査により北側は釜石市から奥州市あたりまで

【５】接触地帯（従前の研究では注目されていなかったが，当研究者の調査により，接触する両方の地域のアクセントの特徴が混合する相を認める。［Ａ］１と２の接触地帯：のぼり核のない語の場合は尾高調，重起伏調も一部に認められる：青森県八戸市八太郎・岩手県宮古市江繋・岩手県葛巻町・［Ｂ］１と３の接触地帯：のぼり核のない語の場合，名詞では尾高調，動詞と形容詞では低平調が基本・［Ｃ］２と３の接触地帯：名詞では，のぼり核のない語の場合は尾高調，動詞と形容詞では重起伏調が基本：岩手県二戸市釜沢・［Ｄ］１と４の接触

地帯：のぼり核のない語の場合は低平調，語頭にのぼり核のある語例が一部に認められる：岩手県釜石市釜石。

３．研究の方法

当研究は，下記方法により進行した。

〈１〉言語資料収集：当該地域の範囲について，「アクセント類別語彙」のうち，東北地方北部地域において類別の例外がほぼ認められていない 313 語を選定し，臨地調査により実態資料を得る。

（２）資料整理：（手書き記録）調査票から，電子データに転写しつつ，音声的変異は統合し，さらに，各類別における「アクセントの型」の導出および「類の統合」について分析のための整理を進める。

（３）分析と考察：　音韻論的分析によりアクセント体系を導き出し，さらに，関係諸方言との比較等を進めて各方言アクセントの性質を考察し，その結果により，アクセント区画の境界線を確定していった。

４．研究成果

補助金研究期間前後も含め，下記〈表１〉の調査地点について実態の臨地調査を実施し，東北地方北部地域のアクセント区画について従前の理解を超えて詳細な境界を見出すことができた。これをあとの［図１］に示す。（下記番号＋色＝調査地点とアクセント分布地図と同一，および，図外地点）

〈表１〉調査地点（重起伏調の地点と低平調基調の地点）

《重起伏調の地点》【青森県：①～⑦】①おいらせ町（下田，②八戸市（根城，③八戸市（類家，④八戸市（新井田，⑤五戸町（切谷内，⑥南部町（沖田面，⑦**三戸町（豊川／　【岩手県：⑧～㉞】**⑧洋野町（有家，⑨洋野町（中野，⑩二戸市（舌崎，⑪軽米町（軽米，⑫軽米町（晴山，⑬二戸市（御返地，⑭久慈市（長内，⑮久慈市（大川目，⑯久慈市（小袖，⑰野田村（野田，⑱葛巻町（江刈，⑲宮古市（崎山，⑳宮古市（五月町，㉑宮古市（末広町，㉒宮古市（大通，㉓宮古市（高浜，㉔宮古市（赤前，㉕宮古市（津軽石，㉖山田町（豊間根，㉗山田町（大沢，㉘山田町（北浜町，㉙山田町（八幡町，㉚山田町（織笠，㉛山田町（船越，㉜山田町（大浦，㉝山田町（漉磯，㉞大槌町（小鎚，㉟大槌町（上町
［低平調基調の地点］【青森県：1～2】1八戸市（市川，2八戸市（八太郎／　**【岩手県：3～26】**3九戸村（戸田，4一戸町（小鳥谷，5盛岡市（藪川，6盛岡市（好摩，7滝沢市（巣子，8宮古市（田老･新田，9宮古市（田老･川向，10盛岡市（肴町，11盛岡市（茶畑，12盛岡市（猪去，13雫石町（南畑，14矢巾町（北矢幅，15宮古市（江繋，16紫波町（片寄，17遠野市（遠野，18遠野市（小友町，28遠野市（青笹，19釜石市（礼ヶ口町，20釜石市（唐丹，21奥州市（江刺･川原，22奥州市（水沢，23奥州市（水沢･姉体，24大船渡市（盛，25一関市（青葉，26一関市（藤沢･黄海，29住田町（上有住，30大船渡市（大船渡町，／　**【宮城県】**27南三陸町（歌津　〈図外〉**【青森県】**■黒石市（追子野木，■五所川原市／**【岩手県】**■／**【秋田県】**■横手市（山内土渕，■横手市（睦成，■横手市（大雄，■横手市（黒川，■湯沢市（高松

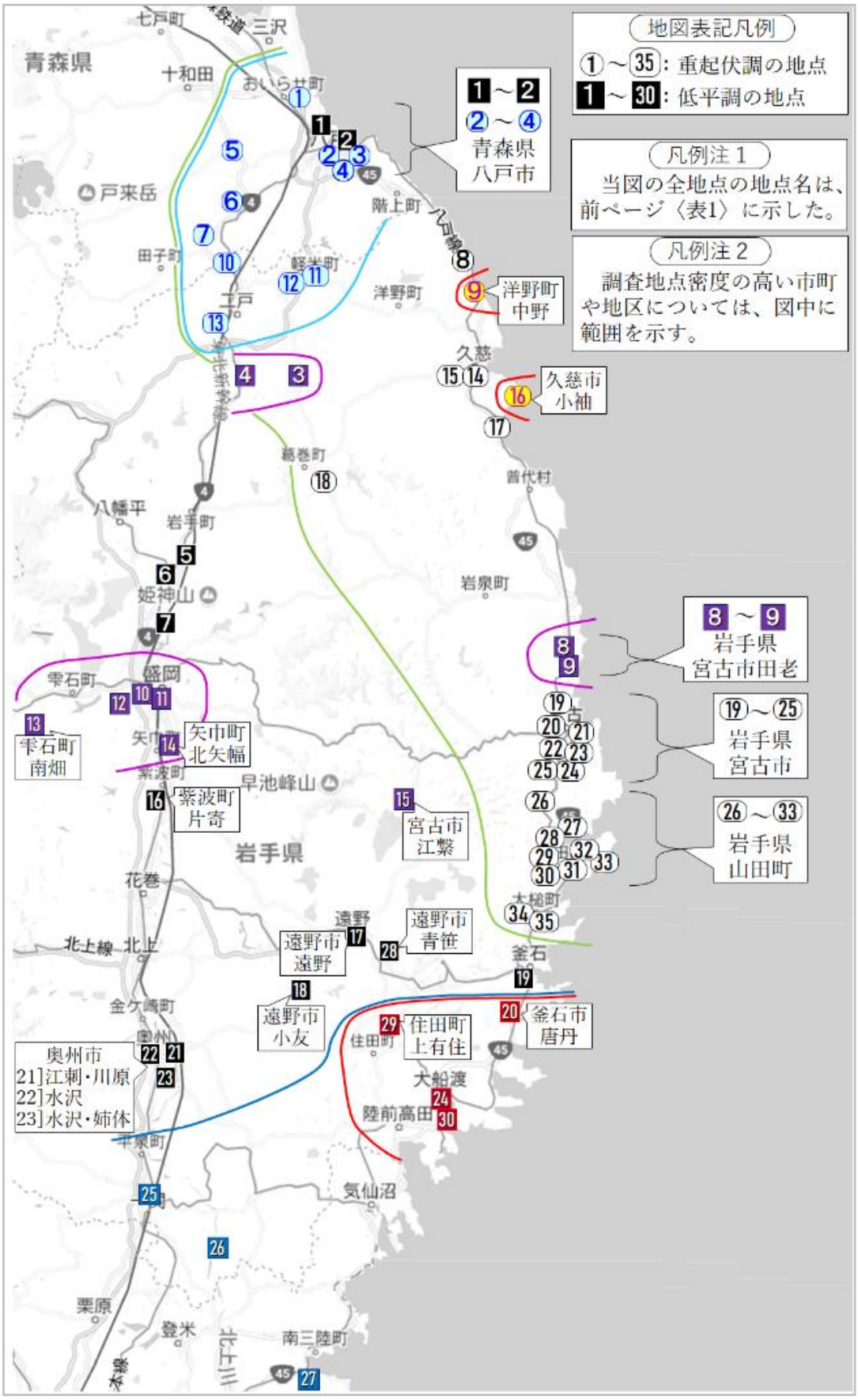
「１」の仮説は以下のとおりの結果となった。

［あ］【２】太平洋沿岸地域の西端がより内陸側まで広がる。

→次ページの「図１」に示すとおり，仮説のとおりとなった。

［い］【４】「南奥特殊アクセント」では，従前より北側の南奥羽地域の北端付近まで広がる。

→あとの「図１」に示すとおり，仮説での境界線を北側に修正すべきことは認められず，奥州市の南部も，「北奥式アクセント」であることが確認され，「南奥特殊アクセント」は，一関市以南の岩手県両磐地域から宮城県北部という従前の結果を確認した。



［図１］東北地方北部地域アクセント分布図（岩手県と隣接地域）

［う］従前「言語島」とされ注目されていた大船渡市盛地区，また，洋野町中野地区については，アクセント体系自体が周辺各地点と大きく異なる。

→次ページの「図２」～「図６」で示すとおり，仮説のとおり，体系ごと異なる。

大船渡市盛地区方言　アクセントと語例

アクセント表記凡例
「○：のぼりアクセント核
○／：末尾上昇アクセント

アクセント名称注記
名称は田中による仮称。（　）内は，山浦玄嗣先生（2000年刊）『ケセン語大辞典』（無明舎出版）での呼称（「中高型」と「尾高下型」は包括して「①型」）。

音調表記凡例
○·●：名詞，▽·▼：助詞「ーも」
●·▼：高音節，○·▽：低音節
●＼：音節内下降，○／：音節内上昇

音節数	項目	中高型（①型）＝名詞末第２音節（のみ）が上昇	尾高下型＝名詞末音節が上昇，アクセント節末で下降	末尾上昇型（②型）＝名詞末または付属語末が上昇	低平型（③型）＝付属語第１音節まで低平調（次音節上昇？）
1	アクセント			○／	○
	実現音調			○／～○▼	○～○▽
	語例			木,火,手,歯,絵,尾	戸,柄,子,毛,血,実
2	アクセント		○「○	○○／	○○
	実現音調		○●＼～○●▽	○●～○○▼	○○～○○▽
	語例		貝,靴,村,牡蠣,息,針	山,犬,池,雲,坂	庭,鳥,首,石,川,音
3	アクセント	○「○○	○○「○	○○○／	○○○
	実現音調	○●○～○●○▽	○○●＼～○○●▽	○○○～○○○▼	○○○～○○○▽
	語例	靨,緑,兎,鰻,烏	柱,姿,涙,眼,後ろ	頭,男,表,女,鏡	形,筏,田舎,車,魚

［図２］大船渡市盛地区方言アクセント体系
→あとの盛岡（図４）などの内陸部北奥式アクセントや宮古（図５）などの太平洋沿岸地域アクセントにみられる「無核型」「有核型」の体系でなく，上昇の各位置と低平調の体系となっている。

洋野町中野地区方言　アクセントと語例

アクセント表記凡例
「○：のぼりアクセント核　○／：末尾上昇アクセント

音調表記凡例
○·●：名詞，▽·▼：助詞「ーも」
●·▼：高音節，○·▽：低音節，◎：中高音節
●＼：音節内下降，○／：音節内上昇，●◎○：漸降音調

音節数	項目	重起伏型＝基本アクセント節内に２箇所の高音部	下降型＝基本アクセント節内のほりアクセント核以降下降	上昇型＝基本アクセント節末尾で上昇する
1	アクセント		「○	○／
	実現音調		●＼～●▽	○／～○▼
	語例		戸,柄,子,毛,血,実	木,火,手,歯,絵,尾
2	アクセント	○○	○「○	○○／
	実現音調	●○／～●○▼	○●＼～○●▽	○●～○○▼
	語例	山,犬,足,池,馬,鬼,神,髪	庭,鳥,首,石,川,音	息,海,猿,空,種,鮎,鯏,雨
3	アクセント	○○○	○「○○	○○○／
	実現音調	●○●～●●○▼	○●○～○●◎▽	○○●～○○○▼
	語例	緑,朝日,心,命,涙,油,心	桜,力,頭,暦,男,鋏,袋,鏡	鰻,烏,狐,雀,狸,鼠,兜,鯨

［図３］洋野町中野地区方言アクセント体系
→「無核型」「有核型」の体系でなく，重起伏調型・下降型・上昇型の３型による体系，かつ，宮古（図５）や久慈など太平洋沿岸地域の典型アクセントと高低の配置が逆である。

盛岡市茶畑地区方言　アクセントと語例

アクセント表記凡例
「○：のぼりアクセント核

音調表記凡例
○·●：名詞，▽：助詞「ーも」
●：高音節，○·▽：低音節，●＼：音節内下降

音節数	項目	分類：無核型 ○型（低平調）	有核型 ー３型（名詞末第３音節にのぼりアクセント核）	有核型 ー２型（名詞末第２音節にのぼりアクセント核）	有核型 ー１型（名詞末尾音節にのぼりアクセント核）
1	アクセント	○			「○
	実現音調	○～○▽			●＼～●▽
	語例	戸,柄,蚊,毛,子,血,筋,身			手,絵,尾,木,酢,田,荷,根
2	アクセント	○○		「○○	○「○
	実現音調	○○～○○▽		●○～●○▽	○●＼～○●▽
	語例	庭,鳥,飴,牛,鏡,柿,風,壁		貝,牡蠣,神,息,海,針,肩	山,犬,足,池,馬,鬼,髪
3	アクセント	○○○	「○○○	○「○○	○○「○
	実現音調	○○○～○○○▽	●○○～●○○▽	○●○～○●○▽	○○●＼～○○●▽
	語例	形,筏,田舎,位,車,煙,衣	靨,柱,烏,狐,兜,苺	緑,鮑,黄金,栄螺,岬,瓦	飾り,着物,鎖,間,二人

［図４］盛岡市茶畑地区方言アクセント体系
→上記，大船渡市盛地区（図２）と洋野町中野地区（図３）が言語島であることを示すための参考に北奥式内陸部アクセントの代表として示す。無核型が低平調なのが特徴である。

宮古市中心部方言　アクセントと語例

アクセント表記凡例
「○：のぼりアクセント核

音調表記凡例
○·●：名詞，▽·▼：助詞「ーも」
●·▼：高音節，○·▽：低音節，◎：中高音節
●＼：音節内下降，○／：音節内上昇，●◎○：漸降音調

音節数	項目	分類：無核型 ○型（重起伏調）	有核型 ー３型（名詞末第３音節にのぼりアクセント核）	有核型 ー２型（名詞末第２音節にのぼりアクセント核）	有核型 ー１型（名詞末尾音節にのぼりアクセント核）
1	アクセント	○			「○
	実現音調	○／～○▼			●＼～●▽
	語例	戸,柄,子,毛,血,実			木,火,手,歯,絵,尾
2	アクセント	○○		「○○	○「○
	実現音調	○●～●○▼		●○～●◎▽	○●＼～○●▽
	語例	庭,鳥,首,石,川,音		海,針,息,松,秋,春,猿	足,鬼,空,種,鮎,股,雨
3	アクセント	○○○	「○○○	○「○○	○○「○
	実現音調	●○●～●●○▼	●◎○～●◎○▽	○●○～○●◎▽	●○●＼～●○●▽
	語例	形,筏,田舎,車,翼	兜,苺,蛋,鯨,狐,雀	兎,鰻,烏,命,朝日,姿	頭,男,飾り,着物,鎖

［図５］宮古市中心部（末広町・大通・本町ほか）アクセント体系
→上記，大船渡市盛地区（図２）と洋野町中野地区（図３）が言語島であることを示すための参考に太平洋沿岸地域アクセントの代表として示す。重起伏調が基調となっているのが特徴である。

一関市青葉地区方言　アクセントと語例

アクセント表記凡例
「○：のぼりアクセント核　（◇：特殊音）

音調表記凡例
○·●：名詞，▽·▼：助詞「ーも」
●·▼：高音節，○·▽：低音節，●◆：長音節，◆：特殊音
●＼：音節内下降，○／：音節内上昇，●◆＼：長音節内下降

音節数	項目	分類：無核型 ○型（低平調）	有核型 ー３型（名詞末第３音節にのぼりアクセント核）	有核型 ー２型（名詞末第２音節にのぼりアクセント核）	有核型 ー１型（名詞末尾音節にのぼりアクセント核）
1	アクセント	○			「○
	実現音調	○～○▽			●＼～●▽
	語例	戸,柄,蚊,毛,子,血,身			手,絵,尾,木,酢,田,荷,根
2	アクセント	○○		「○◇	○「○
	実現音調	○○～○○▽		●◆＼～●◆▽	○●＼～○●▽
	語例	庭,鳥,飴,牛,鏡,柿,風,壁		貝,鯉	山,犬,足,池,馬,鬼,髪
3	アクセント	○○○	「○◇○	○「○○	○○「○
	実現音調	○○○～○○○▽	●◆○～●◆○▽	○●○～○●○▽	○○●＼～○○●▽
	語例	形,筏,田舎,車,煙,衣	タベ,歪	緑,鮑,黄金,栄螺,瓦	娘,袋,鎖,油,心,涙,柱

［図６］一関市中心部（青葉地区）アクセント体系
→「南奥特殊アクセント」の代表として示す。語頭に高音部の位置する語例が，音節構造等の要因による一部の例外を除いて認められないことが特徴である。

（以上）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 田中宣廣	４．巻 198
２．論文標題 東北地方北部地域アクセントにおける重起伏調の各種変異について	５．発行年 2024年
３．雑誌名 ひつじ研究叢書（言語編）第198巻　『日本語変異論の現在』	６．最初と最後の頁 87-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 田中宣廣	４．巻 33
２．論文標題 パソコンモニター活用による言語調査の一方法	５．発行年 2023年
３．雑誌名 岩手県立大学宮古短期大学部研究紀要	６．最初と最後の頁 p.69__p.76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関